



IUFRO-J NEWS

No. 20 (1983.8)

マナウス理事会報告

浅川 澄彦

本年の理事会が7月10日から16日までブラジルのマナウスで開催されましたので、その概要をご報告します。今回の参加者は29名、その内訳は理事18名(うち1名はFAO理事の代理、不参加4名)、副部長4名(第1, 2, 3, 5部会)、第18回ユーゴスラビア大会事務局長、会長秘書、副会長秘書、ブラジル関係者3名、発展途上国研究促進のための特別コーディネータ(後述)でした。

ご承知の方も多いと思いますが、マナウスはブラジル、アマゾン州の州都で、人口は約65万人、アマゾン川を約1,400kmさかのぼった、二大支流ネグロ川とソリモネス川の合流点近くに位置しています。リオデジャネイロからは約3,000km、首都ブラジリアからでも2,000km離れたいわば極僻の地で、当地であった2世の研究者の話では、折角よい研究施設がつくられても研究者があまりきたがらないということでした。因みに、マナウスには計画省のアマゾン地域研究所と農業者のアマゾン地域試験場があり、会議期間中それらの一部と試験地などを視察することができました。

7月9日の午後には参加者のほとんどが到着、ある委員会はその夜から会合がもたれました。マナウスでの第一部(10~16日)では、各種委員会4半日、全体会議4半日、現地視察2日、その他2,3の小委員会が行なわれ、17日からはブラジリア経由、南部パラナ州における現地視察を中心とした第二部がありました。私は後半は参加しませんでした。以下、議題を追って概要を述べます。

(1) 発展途上国の研究推進にたいするユフロの役割
前号(No.19)でご紹介したように、京都大会で採択

されたWB/FAO/IUFROの共同勧告にそった具体策の検討が進められていましたが、本年2月にはほぼ成案がえられ、およその計画を示してこの新しい事業のための特別コーディネータが公募されました。これに対して14名が応募したそうですが、長らくFAOに勤務し発展途上国問題にも経験が豊富なOscar FUGALLI氏が適任と思われる旨が報告され、満場一致で承認されました。職名はSpecial Coordinator for Developing Countries(以下SCDCと略記)とされ、理事会のオブザーバーとされました。

この事業に要する経費は当面WB、UNDP(国連開発計画)、および一部先進国の国際協力事業団の援助により、短期的計画としてはアジア、アフリカ、ラテンアメリカの各地域で少なくとも各1回のワークショップを開催し、研究の進展を妨げている学問的、技術的問題点を明らかにするとともに、援助機関が共鳴するような適切な研究計画をつくりあげることを狙いとしています。具体的ことはこんごFUGALLI氏が中心となって検討を急ぐことになりましたが、目下の予定はアジア:1984年3月、アフリカ:同年9月、ラテンアメリカ:1985年3月の開催を目途としており、アジアでのテーマとしては“多目的樹種の生産増大”が例示されました。なお本事業に関連した討議の中で、多くの理事から、ユフロの傘の下で行なわれている各種の研究集會に発展途上国の研究者が少しでも多く参加できるように、この事業の経費を一部流用できないかという意見がのべられました。

(2) ラテンアメリカにおけるユフロ活動

ユフロに加盟している国数、機関数を比較してみると、ラテンアメリカはアジア、アフリカより少ないこと

が分ります(次表参照)。このような実態に関連して、

FAO リスト ユフロメンバー				
	国数	機関数	国数	機関数
アフリカ(除南ア)	28	60	20	29
アジア(除日本)	15	59	15	30
ラテンアメリカ	26	139*	11	25

*68 機関はアルゼンチン

KAUMAN 氏(第5部会副部会長)はラテンアメリカにおける歴史的背景と林業研究の現状および問題点について、また GALVÃO 氏(同地域理事)も問題点を指摘するとともに、中米・カリビア海諸国と南米とを分けるべきだとのべました。両氏の論説は Unasylya かユフロニュースに少なくとも要旨がのると思いますが、これらの話題を中心にして活発な討議が行なわれ、こんごラテンアメリカでのユフロ活動を一層促進することが申し合わされました。

(3) ユフロニュースのスペイン語版

かなり以前からスペイン語版をつくってはしいという要望があったようですが、現状ではポルトガル語圏を加えても450部をでないようで、他の有力言語とのかねあもあって実現していません。前回の理事会でも論議された結果、ユネスコの部分的支援がえられる見通しになったため、No.39について試みにスペイン語版が作られ、それに要した経費、翻訳に当たっての苦勞話などが事務局から紹介されました。前項との関連もあり、ラテンアメリカの何れかの機関が責任をもって英語版完成後1か月以内に刊行するという条件で、しばらく試みる事が承認されました。

(4) 事務局報告

現在、95か国の583機関(うち417は本機関、166は支機関)、および54準会員が登録しており、役員など個人的にファイルに収められている数は906名に及んでいます。前回の理事会で話題になった会員機関所属研究者についての情報の更新については、結局、専門研究会 Working Party)、あるいは特別分科会(Project Group)(一部の特別分科会には専門研究会がおかれていないため)への登録を改めてよびかけ、その結果を部会ごとに集約する方式で実施することになりました。このよびかけはユフロニュースで行なわれるはずです。

(5) 予算

1982年度の収支決算報告、1983、1984年両年の予算説明がありました。ほぼ3,000万円前後で健全な財政状況が維持されています。

(6) ユフロ学術賞選考委員会の発足

第18回ユーゴスラビア大会にむけて新しい学術賞選考委員会が次の顔ぶれで発足しました。委員長: CAYFORD(北米地域理事)、委員: PATALAS(東欧地域理事)、BOL(第3部会長)、浅川(アジア地域理事)の4名です。

(7) 地中海地域理事の交代

第17回京都大会時の評議員会で SEMIZOGLU 氏(トルコ)が選任されていましたが、同氏が国外で勤務していることなど理事職を遂行できない理由が最近になって判明したため、改めてギリシャの LIACOS 教授(Thessaloniki 大学)が選任されました。

(8) 研究グループ役員の一部交代

下記の方々が新たにそれぞれのグループの役員になりました。なお第2, 3, 6の各部会については異動はありません。

第1部会

- | | | |
|----------------|--------|----------------------------|
| S1. 05 | リーダー | J. Huss (西独) |
| S1. 07 | リーダー | Peter Wood (英) |
| " " | " 代理 | Tang Hon Tat (マレーシア) |
| S1. 09 | リーダー | Robert MARTIN(米) |
| P1. 08 | リーダー | H. F. GELENS (オランダ) |
| P1. 13 | リーダー | A. DOHRENBUSCH (西独) |
| (P1. 13は新設で、 | | "Herbicides in Forestry") |
| S4. 04 | リーダー | Otmar GRIESS(オーストリア) |
| (S5. 02 分科会名変更 | | "Timber Engineering") |
| P5. 01 | リーダー代理 | A. Ramos de FREITAS (ブラジル) |

(9) 国際関係

前回の理事会で、各種の国際団体との協力を円滑にするために担当理事がきめられたが、それらの理事から担当している機関の活動状況、協力関係などが紹介されました。FAO、ユネスコ(MAB)については今更解説の必要もないと思いますが、ICRAF、IUCNについてごく簡単にふれます。ICRAFはInternational Council for Research in Agro-Forestryの略で、ナイロビに事務局があり、14名の専門家がいて技術的なアドバイスを行なっているそうです。IUCNはInternational Union for Conservation of Nature and Natural Resourcesの略で、熱帯林破壊を防止するためのキャンペーンなどを行なっているようですが、政治的色彩が強い団体のようです。

(10) 第9回世界林業会議

ここ数回、ユフロは世界林業会議の中で重要な役割を果たしており、このような協調関係を維持するために努力を続けるべきことが確認されましたが、開催予定国メキ

シコの事情でまだ開催日時がきまっていません。最新の情報では、1985年4月頃の開催にむけて検討が進められているようです。

(1) ユフロニュースの改善

ユフロニュースの内容が貧弱、無味であるという感想はわれわれの周囲でも聞かれますが、現会長からその改善についての議題がだされました。このニュースは、いわゆるジャーナルではなく、ユフロ会員に情報を伝達するメディアにすぎないから改善するには及ばないという意見もありましたが、現会長の秘書がジャーナリストであることもあって、とにかく実験的に内容を豊かにし、面白く読ませるものにしてみるのもよからうということになりました。果して適切な寄稿者が継続的にえられるかどうか疑問はありますが、会議の席上で回覧された秘書の試案は大変意欲的で、どんなものができるか大いに期待されます。

(2) 第18回ユーゴスラビア大会

大会事務局長 DOLINŠEK 氏の報告によりますと、スロベニア共和国の首都リュブリャナ（会長 MLINŠEK 教授の居所）で開催を予定している本大会は、1986年9月の第2週（7日～13日）をあて、わが国の例を参考にしてすでに組織委員会も発足したそうです。日程は日曜日に

登録、月曜日開会、土曜日閉会と全く京都大会方式をとっていますが、第17回における問題点を教訓として、部会乃至は専門部門間の合同集会のための時間を多くしようと考えています。まだ確定はしていませんが、ユーゴスラビアは大会の前後にエクスカージョンを組みたいと提案しています。

大会のシンボルテーマもまだ確定していませんが、一応“Forestry Science Serving Humanity”となり、明年9月の次回理事会で決定されることになります。

(3) WALLENBERG 賞候補者の推せん

スウェーデンに創設された同賞の1984年度の候補者（2名）を決定、推せんしました。

(4) 理事会開催予定

今回は1984年9月上旬にフィンランドで、1985年は8月下旬～9月上旬にマレーシアで開催することが申し合わされました。

なお本誌 No. 18 (1982.7) のリュブリャナ理事会報告の後段 (p.3 左欄) で、第18回大会々場の Cankarjev Dom の室数が少ないようだと言いましたが、今回の説明によりますと小集会室をいれると全部で55室あるそうですので、訂正いたします。 (1983. 7. 25)

ユフロ第5部会（林産部会）大会に出席して

林業試験場 須藤 彰 司

第5部会の大会が6月27日から7月5日迄の間、米国、ウィスコンシン州、マジソン市において行われた。会場は、市内にあるコンコースホテルで、参加者は主としてこのホテルと周辺の2つのホテルに宿泊した。

参加者は、世界35ヶ国からの200数10名で、米国からの参加者が80数名で第1位であったが、わが国からは30数名の参加者があり、第2位で、両者を合わせるとはば過半数を越えることになっていた。この規模の国際会議に、日本からの参加者がこれ程多かったことは注目に値することで、わが国の林産部門の研究者の海外での研究発表に対する関心の深まりを示すものとして大いに歓迎したいものである。

●会議の主な内容

●6月28日

※キーノートアドレス：“木材を早く生長させ、より

よく利用しよう”：ウエアハウザー副社長 C. W. BINGHAM

※ポジションペーパー：木材利用者のための材質の必要性：オーストラリア CSIRO W. G. KEATING

※—————：接着剤と複合木材 現在と将来：アメリカ林産研究所 R. H. GILLESPIE

グループセッション

最終用途に望まれる木材の性質

ウッドエンジニアリング

木材保存

パネル製品

国際木材解剖学会

ポスターセッション

●6月29日

※プレナリーレクチュア：将来の早成木材：英国林産

研究所 J. D. BRAZIER

グループセッション

木材接着と接着剤

ウッドエンジニアリング

最終用途に望まれる木材の性質

単板切削

国際木材解剖学会

※ポジションペーパー：材質の変動：ニュージーランド

ド林業試験場 J. M. HARRIS

※—————：広葉樹材資源の利用：仏国中央木材研究所 W. G. KAUMAN

グループセッション

木材接着と接着剤

ウッドエンジニアリング

森林バイオマスからのエネルギーとケミカルス

木材の材質

ポスターセッション

●6月30日

※プレナリーレクチュア：木材生産の統合化：ノルウェー木材研究所 R. BIRKELAND

グループセッション

木材接着と接着剤

ウッドエンジニアリング

熱帯材

機械加工と製材

乾燥

ポスターセッション

●7月1日

※プレナリーレクチュア：家庭利用のための燃料としてのバイオマスの生長と利用：スリランカ科学・工学研究所 D. de SILVA

グループセッション

木材接着と接着剤

機械加工と製材

乾燥

森林バイオマスからのエネルギーとケミカルス

●7月2日

※プレナリーレクチュア：ティンバーエンジニアリングの発展と潜在力：コロラド州立大学 J. R. GOODMAN

グループセッション

木材接着と接着剤

ウッドエンジニアリング

国際木材解剖学会と材質の天然変動

●7月4日

セミナー——木材の変動性の管理

熱帯材のより広い利用のための考え方と指針 FAO

T. ERFURTH

ペイマツの樹木、丸太、木材などへの管理の効果、カナダ

B. C. 大学 R. W. KENNEDY & J. H. SMITH

各グループのビジネスミーティング

各分科会のビジネスミーティング

●7月5日

大会の勧告の決定：ほぼ次のような勧告が決定された。

<勧告>

1. 木材の供給とマーケティングの変化が急激であるが、それに対応して研究が進められる必要がある。
2. 木材工業はその材料を早成樹種に頼る割合が増加している。森林の造成に当っては、その木材の性質とその用途を考えて行うべきである。
3. 今迄あまり市場性のなかった樹種の木材、萌芽で生長した樹木からの木材、小径木からの木材などの利用およびマーケティングに対する研究が必要である。また、国際的な規格を作るための努力、さらに熱帯材の輸出のためのグルーピングが非常に重要である。
4. 発展途上国からの半製品、製品の形での木材輸出が出来るような技術の確立が重要である。
5. 発展途上国は、ユフロの会合に政府の役人ではなく、研究者、技術者を送るべきで、先進国はそのための経済的援助をすべきである。
6. 第5部会の全メンバーは、基礎的および応用的な部門の研究で、先進国、途上国の個々の研究者および機関の間の協力を進める責任がある。

これらの会議をはさんで6月30日と7月1日の両日には、それぞれ半日を使った見学旅行があった。

○プロシーディングズなどの複写サービス

この大会におけるポジションペーパーなど9篇（※印をつけたもの）を掲載したプロシーディングズ（153頁）および研究発表要旨集（175頁）の複写を希望される方は下記にご連絡下さい。なお複写に要する経費は〔45円×（頁数÷2）+郵送料〕です。

連絡先：林業試験場内

林業科学技術振興所

（電話）内線 325,（担当）三繩

森林経営に関するユフロ国際研究集会

大会議長 南 雲 秀次郎 (東大)

準備事務局長 木 平 勇 吉 (信大)

森林経営に関するユフロ国際研究集会の開催準備を下記のとおり進めています。これはユフロ第4部会の森林経営分科会活動の一環であり、この分野の内外の研究者、森林経営行政担当者が集まり、研究や実践の成果を発表することにより国際交流をはかる機会です。

比較的小人数で、率直かつ自由な討議を通じて実質的な交流を広げる肩のこらない集会となるように企画しています。この分野のユフロ研究集会は例年ヨーロッパ、アメリカで行なわれていましたが、今回日本で初めて開かれます。参加資格は特にありませんので、ぜひ、研究発表あるいは討議への参加をおすすめします。

経営向上のための森林経営計画 — 研究とその実践 —

森林経営に関するユフロ国際研究集会
昭和59年10月15日～19日
東京大学農学部

主催 IUFRO SUBJECT GROUP S4.04, 林業統計研究会, 森林経理研究会
後援 日本林学会, 林野庁, 東京大学

この研究集会の目的は二つあります。一つは専門分野を同じくする内外の研究者が会して最近の研究成果と新しい情報を交換することです。他の一つは理論と実践との連けいを深めることで、自ら実践にたずさわっている機関から森林経営、経営計画策定の方法や問題点に関する報告を求め、森林資源管理のための経営計画のあり方を検討することです。

今日、森林の管理、保全は国際的な共通の課題であ

り、その研究と実践についての交流範囲を国内のみにとどめることは不可能になっています。今回の研究集会はそれぞれの分野で今後、くり返し日本で行なわれる国際研究会の幕あけとなると考えられます。

研究集会のスケジュールとして、前半の3日間は研究発表と討議が、後半の2日間には林業経営の現地検討のためのエクスカージョンが行なわれる予定です。

研究発表の課題の範囲は以下のとおりですが、森林経営に関する分野のあらゆる問題が含まれます。

1. 経営改善のための課題と研究の必要性
2. 森林経営と資源の状況報告
3. 森林計画に関する理論と解析手法
4. 計画理論の適用事例と問題提起
5. 森林計画制度と政策

とりわけ、森林の多目的利用の観点から、資源の保全について各国の関心は高く、最新の研究成果、資料提供、問題提起が期待されています。

ここで発表された内容は研究集会報告集(プロシーディング)として後日印刷され、世界中の関係機関や個人に配布されます。この点からも、我々の森林経営とその研究成果を伝える良い機会になります。

現在、第1回目の案内状を内外の機関に送付して、参加者の意向をまとめている段階です。案内が届いていない場合、あるいは詳細については下記あてに連絡いただければ、お知らせします。

ぜひ、積極的な参加と協力をお願い致します。

事務局 〒396 伊那局私書箱1号
信州大学農学部 木平 勇吉
電話 02657-2-5255

×

×

×

昭和57年度 IUFRO-J 機関代表会議

本会会則に基き機関代表会議を正式に開催する予定でしたが、このためのお集りいただくと多額の旅費を必要とする関係上、異例ではありましたが書面をもって、昭和57年度事業報告、昭和58年度事業計画、昭和57年度会計報告、昭和57年度会計監査報告、昭和58年度予算(案)をご報告申し上げ、書類審議をしていただき、ご承認いただきました。

1. 昭和57年度の事業報告

- (1) IUFRO-J NEWS の発行 No. 18, No. 19
(各々 1,300部)

(2) 会員の異動

	A会員	B会員	C会員
新規入会員	—	—	1
退会会員	1	—	—
現在数	944名・33機関 (学生会員は10名)	14機関	1名

物故者 諸戸 民和氏
 柴田 栄氏

(3) 昭和56年度機関代表者会議

昭和57年6月24日、番町共済会館(東京・麩町)で開催、会議内容については、IUFRO-J NEWS No. 18ならびに議事録として報告の通りである。

2. 昭和58年度の事業計画

(1) 機関代表会議

日本林学会第95回大会が、明年4月東京大学で開催予定なので、その機会に代表会議を開催する予定。

(2) 情報活動

1) IUFRO-J NEWS の発行

2) 58年度開催の各部会、分科会、研究会への出席者による活動報告

3) 59年度開催予定の各部会、分科会、研究会に関する速報

4) その他

3. 昭和57年度会計報告

(1) 昭和57年度一般会計収支決算報告

別掲の通り承認

(2) 昭和58年度特別会計収支決算報告

別掲の通り承認

(3) 昭和57年度会計監査報告

九大西沢正久監事から別掲の通り、適正で異状のない旨報告。承認

(4) 昭和58年度予算案

別掲の通り承認

(事務局 樋渡)

昭和57年度一般会計収支決算書

(収入の部)

科 目	収入予算額	収入決算額	備 考
前年度繰越金	1,728,596円	1,728,596円	
会 費			
56年度分(A会費)	18,000	19,000	19名分
(B会費)	—	20,000	3県(神奈川, 富山, 徳島)
57年度分(A会費)	900,000	949,000	944名 学生10名
(B会費)	100,000	85,000	14県(北海道, 岩手, 埼玉, 山梨, 神奈川, 岐阜, 岐阜寒, 京都, 奈良, 愛知, 滋賀, 広島, 福岡, 愛媛)
雑 収 入	20,000	21,319	利息(普通預金口座)
合 計	2,766,596	2,822,915	

(支出の部)

科 目	支出予算額	支出決算額	備 考
情報活動費	790,000円	350,700円	IUFRO-J NEWS No. 18~19
会議費	120,000	75,288	57.6.24 於番禺共済 機関代表会議の昼食代と会場借料
旅費	—	93,000	57.6.24 機関代表会議補助 (14名)
払込手数料送料	—	9,890	払込手数料 2,890円
予備費	156,596	20,690	切手、文具類 7,000円
特別会計へ	1,700,000	1,700,000	香典 (柴田、諸戸氏) 弔電料金
合 計	2,766,596	2,249,568	

差引残額: 2,822,915 - 2,249,568 = 573,347円 (昭58年度へ繰越)

昭和57年度特別会計経理決算書

科 目	収入額	支出額	備 考
前年度繰越額	(*) 7,694,905円	—	(**) 保管状態 定期 3,447,360円 普通 1,341,146円 普通 2,906,399円
利息	246,441	—	定期、普通預金 (上記) の合計 (5回分)
57年度一般会計からの繰入れ	1,700,000	—	
合 計	(*) 9,641,346	—	(**) 保管状態 (58.4.1) 定期預金 (6か月) 8,941,346円 } 58.6.1 に満期のため " (3か月) 700,000円 } 合併して定期預金

昭和57年度会計監査報告

本会の一般会計収支決算、特別会計収支決算ならびに経理簿冊、預金通帳、現金等会計に関し詳細監査したところ適正に管理されていると認め、ここに報告します。

昭和58年4月12日 監事 西沢 正久

昭和58年度一般会計予算案

(収入の部)

科 目	金 額	備 考
前年度繰越金	573,347円	
会費		
57年度分	29,000	29名分 林試化学部 (注: 4月現在納入済)
58年度 (A会費)	900,000	900人×1,000円
" (B会費)	50,000	10P (機関) ×5,000円
雑収入	20,000	利息ほか
合 計	1,572,347	

(支出の部)

科 目	金 額	備 考
情 報 活 動 費	585,000 円	180,000 円×3 回=540,000 円 送料 500 円×3 回×30 人=45,000 円
会 議 費	90,000	会場借料 30,000 円 昼 食 代 2,000 円×30 人=60,000 円
予 備 費	150,000	機関代表会議旅費補助
雑 費	247,347	
特別会計へ繰入	500,000	
合 計	1,572,347	

☆昭和 58 年度の IUFRO-J 会費の納入について

・・・お 知 ら せ・・・

昭和 58 年度会費未納の機関は、IUFRO-J 規約にもとづき、それぞれの機関を通じて、下記にご納入下さるようお願いいたします。

納入先：IUFRO-J 事務局

○農林水産省林業試験場 調査部内

○銀行払込の場合

関東銀行牛久支店

エフロ事務局 普通預金 No. 697583

IUCN (International Union for Conservation of Nature and Natural Resources)

1948 年に設立された連合で、現在 114 か国、497 機関が加盟しており、天然生物資源の保護と保続的な利用にむけて科学的な背景にたった行動を促進することを目的としている。定期的に bulletin を刊行、会員に配布するほか、自然保護、環境政策などに関連した各種の印刷物を刊行している (1983 年版カタログが事務局にあります)。

前号 (No. 19) の正誤表

ページ	段	行	誤	正
4	右	上から 17 行	他にも主要な	他にも重要な
4	右	下から 15~14 行	スエーデン教授	スエーデンのタム教授
4	右	下から 9 行	スタディツア	スタディツア
5	右	上から 8 行	ファイヤーウィードというのだと	ファイヤーウィードというのだと
5	右	下から 19 行	外国人によっては	外国人にとっては
5	右	下から 17 行	他でもみかけに	他でもみかけた

☆お詫び

IUFRO-J NEWS は 7 月と 1 月に発行するのが恒例となっておりましたが、今回は 7 月中旬に開催されたマナウスでの理事会報告を掲載するため、8 月発行になりました。この点お詫び申し上げますとともに、何分ご諒承下さるようお願いいたします。

IUFRO-J NEWS No. 20

昭和 58 年 8 月 25 日

編集・発行：国際林業研究機関連合

日本委員会事務局